

「補聴器」の購入をお考えの皆様へ

1人1人に合った補聴器を選定できる
「認定補聴器技能者」が在籍する

認定補聴器
専門店へ
ご来店ください。



補聴器を安全・効果的に 使用していただくために

難聴を自覚されたらまず耳鼻咽喉科へ

相手の話し声や周囲の音が聞き取りにくくなることを難聴といいます。そして、その原因には、加齢による聴覚機能の衰えのほか、種々の疾患に起因するものがあります。

難聴を自覚された時は、補聴器を購入する前に社団法人 日本耳鼻咽喉科学会が委嘱する補聴器に関する専門的な知識を修得されている補聴器相談医の診察を受け、補聴器使用上の指導を受けられることをお勧めします。

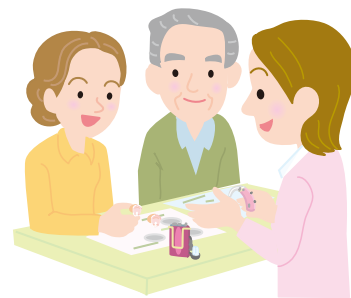
補聴器相談医が所在する医療機関は、日本耳鼻咽喉科学会等のホームページにおいて、都道府県ごとに公表されています。

補聴器販売店で十分なお相談を

補聴器は一般の音響製品と異なり、安全で効果的に使用するためには、使用者の難聴の状態に適合するよう十分調整して、補聴効果を得られるように使用指導を受けることが必要な医療機器です。

現在市販されている補聴器には、耳あな型・耳かけ型・ポケット型といった種類のほか、デジタル式など機能の違いもあり価格も様々です。

補聴器の使用を希望する方は事前に、(1)補聴器の専門的な知識及び技能を習得している認定補聴器技能者と相談して補聴器を選び、(2)安全で補聴器効果が得られるようにするための測定と調整を受け、(3)必要な装着指導を受けて購入されることをお勧めします。



認定補聴器専門店とは

公益財団法人テクノエイド協会は、安全で効果的な補聴器の販売と使用を推進し、難聴者の自立と福祉の増進に寄与するために、認定補聴器専門店の認定業務を行っています。

主な認定要件は以下のとおりです。

- (1)補聴器の使用指導を的確に行うために必要な知識及び技能を取得していると、協会が認定した認定補聴器技能者が常勤していること。
- (2)補聴器の適合調整及び補聴効果の確認を適切に行うために必要な施設設備が整備されていること。
- (3)社団法人日本耳鼻咽喉科学会が委嘱する補聴器相談医と連携して業務を行っていること。
 - ・認定された店舗には協会が交付した認定プレート及びステッカーが掲示されています。

認定補聴器専門店



公益財団法人 テクノエイド協会

テクノエイド協会による資格審査に合格した補聴器販売店であることを表す「認定補聴器専門店マーク」は、5年ごとに認定時と同様の更新審査を受けることが義務づけられています。

認定補聴器技能者は以下の養成課程を経て資格を取得しています。

※平成22年度より資格の取得要項が改正されました。

初年度

第Ⅰ期養成課程

①eラーニング(4ヵ月)

『インターネットを利用した学習システムにより、当養成課程の基礎に当たる23課目計46時限(1時限=45分)の講習課目を履修します。』

②スクーリング(2日間)

『講習会の形式で、模型による耳型採取等の実習を含めた、5課目計13時限のカリキュラムを履修します。』

第Ⅰ期養成課程修了試験(スクーリング最終日に実施)

2年度

第Ⅱ期養成課程

『臨床医学分野等、21課目計44時限のカリキュラムを履修する5日間の講習会です。』

第Ⅱ期養成課程修了試験(集合講習最終日に実施)

3年度

第Ⅲ期養成課程

『実技実習等に関する、5課目計16時限のカリキュラムを履修する2日間の講習会です。』

4年度

第Ⅳ期養成課程

『補聴器の販売・使用の適正化の推進を目的とする、5課目計6時限のカリキュラムを履修する1日の講習会です。』

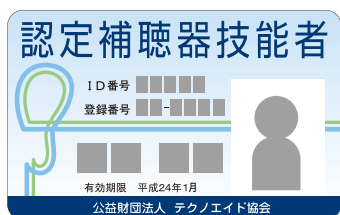
認定補聴器技能者試験

- 試験科目
① 学科試験 ② 実技に関する筆記試験
- 受験資格

『第Ⅰ期から第Ⅳ期までの各養成課程修了者で、技能者試験受験時に日本耳鼻咽喉科学会の補聴器相談医(または同学会が認定している耳鼻咽喉科専門医)の指導承諾書等所定の書類を提出した者』

資格取得後

- 資格取得後も規定の講習会を受講し、5年毎の資格更新を行っています。



認定補聴器技能者とは

協会が実施する4年間の認定補聴器技能者養成課程(上記に掲載)を修了し、最終試験に合格した者に与えられる資格です。

認定補聴器技能者は協会が交付した「認定補聴器技能者カード」を携帯して業務を行っています。

認定補聴器専門店では 必ず対面で お相手いたします。

通信販売やインターネットでの補聴器購入は適正ではありません。補聴器の適正な販売を行うために必要な知識・技術を有する認定補聴器技能者が、図のような聞こえに合わせたフィッティングや装用指導を行います。



ご来店の前に

耳鼻科医の紹介状等
を持参しましょう。

来店する前に
聞こえの不自由さ、
補聴器をどのように
使いたいかメモ
して行きましょう。

補聴器は聞こえ

調整・フィッティング

コンサルティング

補聴器を使用すると聞こえの環境が変わります。聞き方や使い方をご指導します。話し相手の方にも話し方を指導します。



アフターケア

取扱いや、アフターサービスについて説明します。日常生活で使ってみて不都合なことをメモしていつでもご来店ください。ご相談や調整データ、アフターケアは記録してありますので安心です。

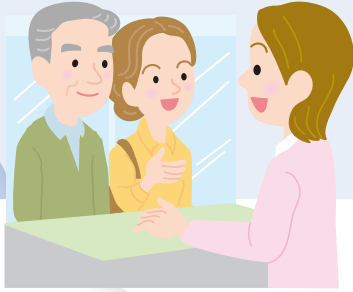


補聴効果の確認

補聴器を付けてみて、言葉の聞こえを確認し、使用する場所の音環境を作った結果を確認します。

コンサルティング

ガイダンス



ご要望を
お伺いします。

聞こえの測定

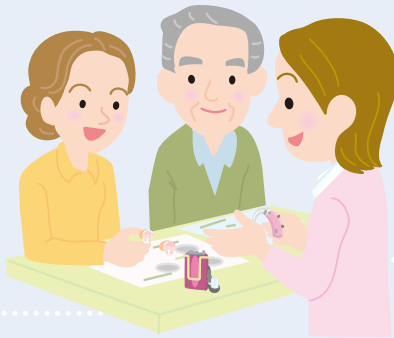
補聴器を調節するために必要なデータを取ります。特に、言葉の聞き取り測定は重要です。



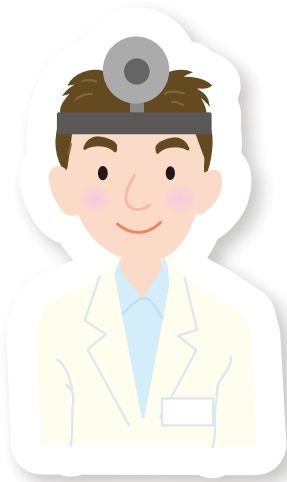
耳鼻科医とも
連携しています

補聴器の選択と調整

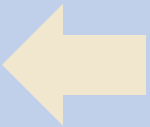
補聴器の使用目的、聞こえのデータ、操作性等を判断して補聴器の機種を選定します。



に合わせることで グが重要です。



忍
理解度や
て補聴効



高い方が良く聞こえますか？

Q1 補聴器は、価格が高い方が良く聞こえますか？

高いから良く聞こえるということではありません。個々の聞こえの程度や使用目的に合わせた、その結果が価格になります。ただし、高価格な製品にはより多くの調整機能があり、使用環境が広がるため、さまざまな要望への対応が可能になります。



Q2 補聴器を付ければ、すぐ元通り聞こえるようになりますか？

聞こえの不自由さに個人差があるように、補聴器を使用した場合の効果にも個人差があります。また、聞こえを補う機能にもある程度の限界があります。しかし、大多数の方が使用前に比べて、聞こえが良くなったと喜ばれています。大事なことは、使用して良い点を見出すことです。



個人差

Q3 購入する時は、自分が行かなければなりませんか？

必ずご自分で、出来れば家族の方も一緒にお店に足を運び、納得の行くまで認定補聴器技能者にご相談ください。難聴の程度は一人ひとり違います。そして、補聴器を使用する目的も違います。一番重要なことは、きちんとご自分の聞こえに合わせることです。



自分が行きましょう！

Q4 補聴器の購入には何か支援制度がありますか？

健康保険および生命保険関連での支援制度はありませんが、身体障害者(聴力障害)手帳所持者の方には、難聴の程度に応じて補装具費の支給を受けられる公的な福祉制度があります。具体的な購入補助制度については、居住する市区町村の障害者自立支援法担当窓口にお問い合わせください。



自立支援法担当窓口

Q5 補聴器の種類や価格について知りたいのですが…

補聴器には、耳あな型、耳かけ型、ポケット型(箱型)などの種類があります。それぞれの価格は、おおよそ以下の通りです。
耳あな型(¥70,000~¥500,000) / 耳かけ型(¥50,000~¥400,000) / ポケット型(¥30,000~¥90,000)詳しくは店頭でご相談ください。



耳かけ型



耳あな型



ポケット型

Q6 補聴器はうるさいものですか？

聞こえが悪くなると、音の小さい静かな状態に耳が慣れてしまいます。そのため補聴器の使い始めではうるさく感じる人もいますので、段階的な調整が必要です。不快な大きな音は調整機能で抑制することができます。



段階的な調整が必要

Q7 雑音(ノイズ)が多いと聞きますが…

補聴器から聞こえる雑音は、実は今までに聞こえなかった周囲の騒音です。補聴器は聞きたい音だけを拾うことができないため、ざわついた場所では人の声と一緒に騒音も多くなります(俳句をなさる方からは自然の音が聞けて楽しいという声も!)。最近の一部の騒音を抑えられる機能を持つ機種もあります。聞きたい方向の音を自動的に選べる機能のあるタイプなら、より快適に使用できます。



Q8 ピーッという音は止められますか？

聞きたい音を増幅してくれる補聴器ですが、使用中に音の漏れがあるとピーッという音(ハウリング)が発生します。最近ではハウリング軽減機能搭載機種もあります。使用前には、補聴器を外耳道に先に装着してからスイッチを入れるようにしてください。



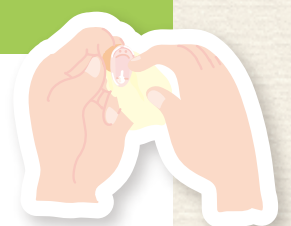
Q9 補聴器は両耳で使うべきですか？

補聴器を両耳で使用する事により、補聴器の装用効果が高まる場合と、逆に少しわずらわしさが増える場合が考えられます。補聴器の両耳での使用をお考えになる場合は「補聴器相談医」にご相談ください。



Q10 補聴器は何年ぐらい使えますか？

一般的に耐用年数の目安は5年とされていますが、汗をかくことが多いと短期間で故障したり、耳垢が多い方では耳あな型の音の出口が詰まりやすかったりと、使い方により大きく異なります。補聴器の調子が悪い、聞こえにくいと感じたら、早めに専門店へご相談ください。





認定補聴器専門店をお探しの際は
公益財団法人テクノエイド協会ホームページをご利用ください。
<http://www.techno-aids.or.jp/>に
認定補聴器専門店の名簿が都道府県別で記載されています。

公益財団法人テクノエイド協会とは

(公財)テクノエイド協会は、福祉用具に関する調査研究及び開発の推進、福祉用具情報の収集及び提供、福祉用具の臨床的評価並びに義肢装具士に係る国家試験事務等の業務を行い、福祉用具の安全かつ効果的な利用を推進し、障害者及び高齢者の福祉増進に寄与することを目的としています。

補聴器の適正供給に関しては「認定補聴器技能者資格制度」ならびに「認定補聴器専門店業務運営基準」を定め「認定補聴器技能者への資格付与」「認定補聴器専門店への認定証書交付」を行っています。



公益財団法人 **テクノエイド協会**

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階 電話03-3266-6880 FAX03-3266-6885

補聴器供給関連団体

一般社団法人日本補聴器販売店協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-11-1 島田ビル6階 電話03-3258-5964 FAX03-3258-9033

一般社団法人日本補聴器工業会

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-7-1 鎌倉橋ビル5階 電話03-5283-6244 FAX03-5281-6245

特定非営利活動法人日本補聴器技能者協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-11-1 島田ビル6階 電話03-3258-5575 FAX03-3258-9033